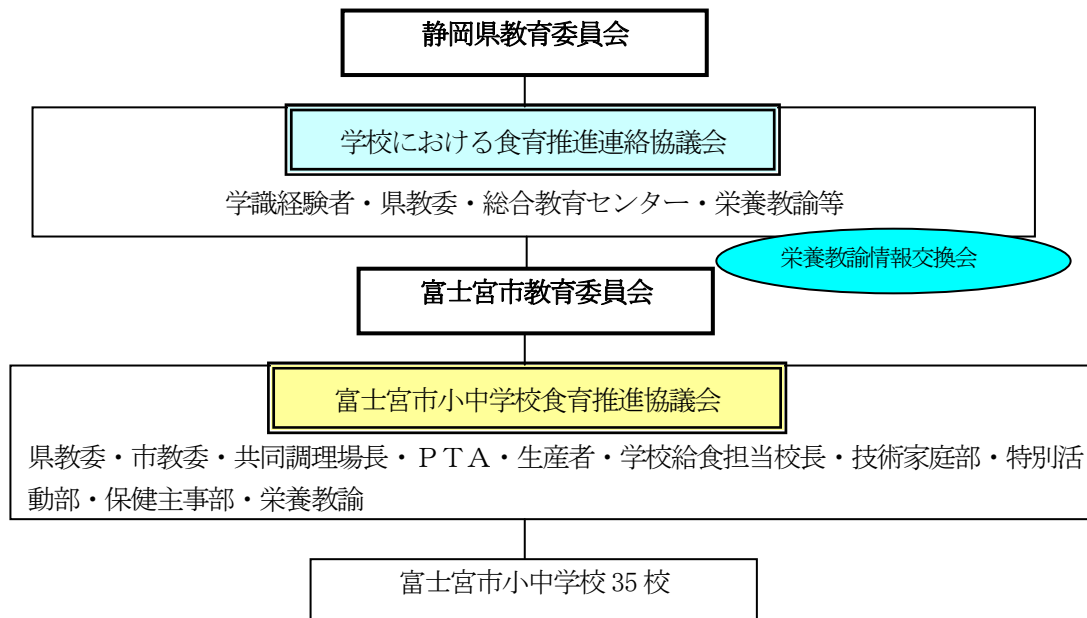


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	静岡県
再委託先名	富士宮市

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

テーマ1	栄養教諭を中核とした食に関する指導の普及啓発のための取組
1 食育推進連絡協議会の設置	
(1) 趣 旨	栄養教諭との連携を図りつつ、その成果を県内全域に普及する。
(2) 内 容	栄養教諭を中核とした食育の現状を踏まえ、他地域の取組を参考にしながら静岡県としての学校における食育の推進の方向性について協議した。
(3) 経 過	
ア 第1回学校における食育推進連絡協議会	平成22年10月27日(水)
(ア) 本事業についての説明	
(イ) 事業計画について	
(ウ) 情報交換・意見交換	
イ 第2回学校における食育推進連絡協議会	平成22年12月22日(水)
(ア) 他地域(横浜市)の取組について(実践発表)	
(イ) 学校における食育推進連絡協議会食育推進の課題・問題点について	
(ウ) 情報交換・意見交換	
ウ 第3回学校における食育推進連絡協議会	平成23年2月14日(月)
(ア) 平成22年度実施報告	
(イ) 平成23年度実施計画	
(ウ) 情報交換・意見交換	
2 食育啓発リーフレットの作成・配布	
(1) 趣 旨	各学級担任が栄養教諭と連携しながら子どもの朝食摂取状況を指導できるリーフレットを作成・活用し、食生活の改善を図るとともに、実態を調査集計し、栄養教諭と連携した食育指導の成果を検証する。
(2) 対 象	全公立小学校5年生及び中学校1年生(中学入学後に摂取率が低下する傾向にあることから、早期の啓発と意識向上を考慮した。)

- (3) 調査時期 第Ⅰ期調査 6～7月頃、第Ⅱ期調査 11月～12月頃。
- (4) 調査結果 第Ⅰ期の結果は、摂取率が高い傾向にあるが、3色の栄養バランスがとれた食事に関しては、6割を超える程度になっている。第Ⅱ期の結果は、摂取率は第Ⅰ期と比較すると若干減少はしたものの、高い傾向を示している。3色の栄養バランスがとれた食事に関しては、小学生で5%、中学生で2.7%の増加が見られ、Ⅱ期に渡って取り組んだ指導の結果が表れている。

### テーマ1～3に共通する具体的計画

○各学級担任が栄養教諭等と連携しながら、子どもの朝食摂取等の啓発リーフレットを活用し、子どもたちの食生活の改善を図るとともに、実態を調査集計し、食育指導の成果を検証した。

調査結果から、朝食摂取状況については、小中学生ともに100%近い数値を示しており、学級担任と栄養教諭等が連携した指導の成果が顕著に現れている。しかし、栄養バランスについては、「良い」の割合が7割程度の数字であることから、今後、静岡県版「食に関する指導の手引」等を活用した各学校における栄養指導の充実を図っていく必要がある。

### 数字で変化のあった事項について

○テーマ1の「食育啓発リーフレット」による調査結果（調査対象は小5と中1）

#### 【第Ⅰ期の調査結果】

調査1：1週間（5日間）に何日朝ごはんを食べましたか。

小学校5年生

	1週間（5日間）に何日朝ごはんを食べましたか。						合計
	5日 食べた	4日 食べた	3日 食べた	2日 食べた	1日 食べた	1日も 食べていない	
第1期	32,713人 96.0%	867人 3.4%	287人	117人 0.5%	53人	45人 0.1%	34,082人 100%
	朝食を食べる、ほぼ食べるグループ 99.4%			朝食を食べない、ほぼ食べないグループ 0.6%			
第2期	32,573人 95.5%	971人 3.8%	314人	120人 0.6%	73人	50人 0.1%	34,101人 100%
	朝食を食べる、ほぼ食べるグループ 99.3%			朝食を食べない、ほぼ食べないグループ 0.7%			

中学校1年生

	1週間（5日間）に何日朝ごはんを食べましたか。						合計
	5日 食べた	4日 食べた	3日 食べた	2日 食べた	1日 食べた	1日も 食べていない	
第1期	29,757人 93.6%	1,131人 5.0%	447人	212人 1.0%	120人	137人 0.4%	31,804人 100%
	朝食を食べる、ほぼ食べるグループ 98.6%			朝食を食べない、ほぼ食べないグループ 1.4%			
第2期	29,545人 93.0%	1,195人 5.2%	443人	214人 1.2%	156人	203人 0.6%	31,756人 100%
	朝食を食べる、ほぼ食べるグループ 98.2%			朝食を食べない、ほぼ食べないグループ 1.8%			

調査2：1週間（5日間）に3色の食品をすべて食べた日は何日ありましたか。

小学校5年生

		1週間（5日間）に3色の食品をすべて食べた日は何日ありましたか。						
		5日 そろっていた	4日 そろっていた	3日 そろっていた	2日 そろっていた	1日 そろっていた	1日も そろっていない	合計
第1期		12,604人	5,321人	4,902人	4,022人	3,395人	3,838人	34,082人
		37.0%	30.0%		21.8%		11.3%	100%
		朝食に3色の食品がそろっている、ほぼそろっているグループ			朝食に3色の食品がそろっていない、ほぼそろっていないグループ			
		67.0%			33.1%			
第2期		13,880人	5,722人	4,950人	3,737人	2,789人	3,023人	34,101人
		40.7%	31.3%		19.1%		8.9%	100%
		朝食に3色の食品がそろっている、ほぼそろっているグループ			朝食に3色の食品がそろっていない、ほぼそろっていないグループ			
		72.0%			28.0%			

中学校1年生

		1週間（5日間）に3色の食品をすべて食べた日は何日ありましたか。						
		5日 そろっていた	4日 そろっていた	3日 そろっていた	2日 そろっていた	1日 そろっていた	1日も そろっていない	合計
第1期		10,629人	4,933人	4,994人	4,091人	3,339人	3,813人	31,799人
		33.4%	31.2%		23.4%		12.0%	100%
		朝食に3色の食品がそろっている、ほぼそろっているグループ			朝食に3色の食品がそろっていない、ほぼそろっていないグループ			
		64.6%			35.4%			
第2期		11,758人	4,862人	4,725人	3,673人	2,977人	3,756人	31,751人
		37.0%	30.3%		20.9%		11.8%	100%
		朝食に3色の食品がそろっている、ほぼそろっているグループ			朝食に3色の食品がそろっていない、ほぼそろっていないグループ			
		67.3%			32.7%			

### 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- 食育啓発リーフレットを活用することを通して、朝食摂取率は100%に近い数字を示しており、学級担任と栄養教諭等が連携した指導の成果が現れている。
- 小学校5年生、中学校1年生ともに、第1期よりも第2期の方が「朝食に3色の食品がそろっている、ほぼそろっているグループ」の数値を上回っておりリーフレットを活用した効果が見られる。

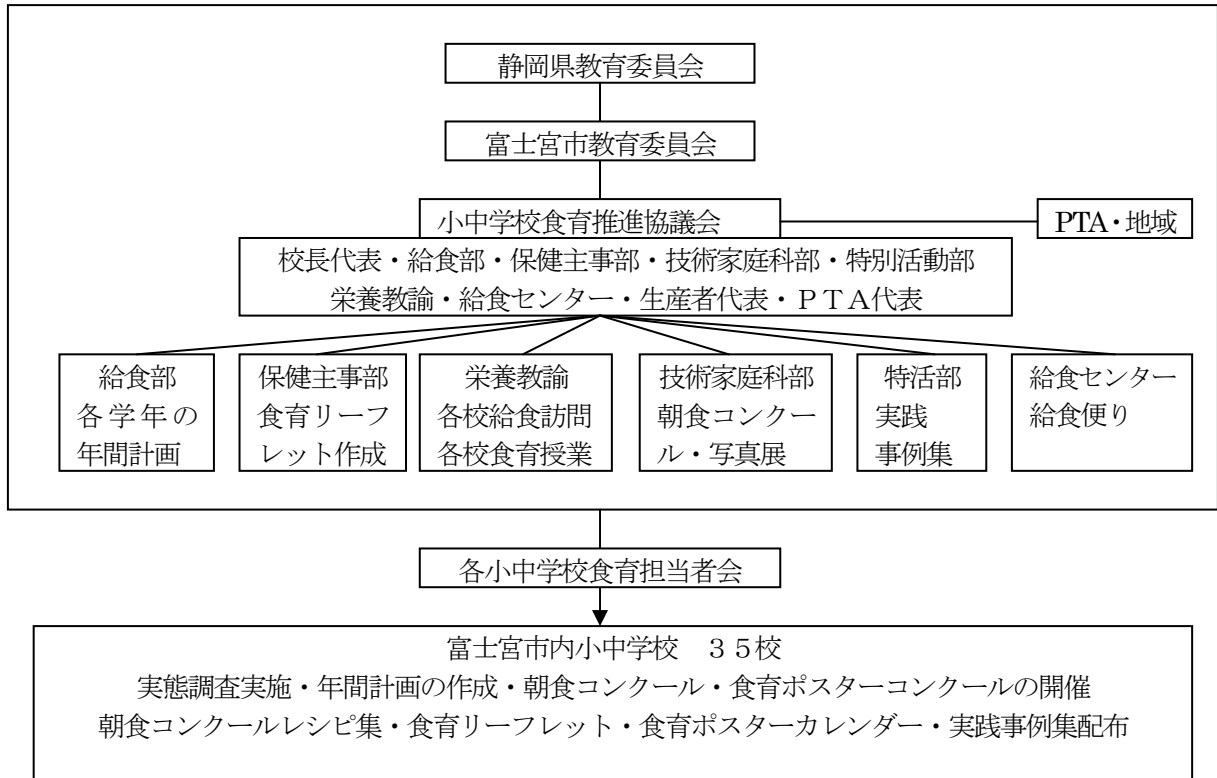
### 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 栄養バランスが取れた食事の摂取率は、ここ数年横ばい状況である。学校における児童生徒に対する食育はもちろんのこと、家庭への啓発をさらに強化し、連携をしていく必要がある。
- 平成20年度に各市町教育委員会を通じて調査したところ、公立小中学校における「食に関する全体指導計画」の作成率は45%に留まっていたが、平成21年度には64%に上昇した。さらに平成22年度は78%になり、上昇を続けている。今後も、栄養教諭及び学校栄養職員を中心として、食育担当者等と連携を図りながら、作成率を向上することによって、更なる食育の推進が図られることを期待している。

再委託先名

富士宮市

## 1. 事業推進の体制



## 1. 具体的取組等について

### テーマ1 栄養教諭を中核とした食育指導のための取組

#### 1 小中学校食育推進協議会の設置

- (1) 目的 児童生徒の「食の自己管理能力」の育成や、「望ましい食習慣」の形成等についての推進を図る。栄養教諭と各部の連携を図り、食育を市内全域に普及啓発する。
- (2) 内容 年間3回開催。今年度は、生産者代表、PTA代表者をメンバーに加え、栄養教諭を中核とした富士宮市としての学校における食育推進の方向性を協議した。
- (3) 開催日 第1回 平成22年4月28日(水) 平成22年度の食育推進の方向性・各部役割確認  
第2回 平成22年11月16日(火) 各部の中間報告、実践事例集の検討  
第3回 平成22年2月21日(木) 平成22年度の成果と課題、来年度の方向性検討
- (4) その他 平成23年1月 市校長会にて、小中学校食育推進協議会より、各校へ「平成23年度小中学校における食育の充実のために」の確認事項を依頼する。

#### 2 食育担当者会・講演会の開催

- (1) 趣旨 小中学校食育推進協議会で協議、決定された内容を各校で周知し、実践に結びつけるため開催。
- (2) 開催日 食育担当者会 平成22年5月20日(火) 参加者 各校食育担当者(給食主任)  
食育講演会・ワークショップ 参加者 北山中学校生徒・保護者・各校食育担当者  
平成22年7月2日(金)  
講師 こばたてるみ 「食で決まる中学生の学力・体力」  
食育講演会 平成22年12月13日(月) 参加者 各校食育担当者・各校希望者・保護者希望者  
講師 竹下和男 「お弁当の日で育つもの一学校・家庭・地域の連携」

### 3 先進地域（他都道府県）への視察

- (1)趣 旨 富士宮市小中学校食育を振り返ったり、上記協議会や食育担当者会等での参考資料として活用したりするため、栄養教諭配置の先進県（愛知県）における取組を視察した。
- (2)視察日 平成22年11月30日(火)
- (3)視察先 愛知県知立市西知立小学校 「平成21年度 愛知県学校給食優良校」  
愛知県知立市学校給食センター

## テーマ2 学校における食に関する指導の普及のための取組

### 1 富士宮版 「食に関する指導」の実践事例集・CDの作成

- (1)趣 旨 市内の全学校において、栄養教諭を中核としながら、全教職員が一体となった取組のもとに食に関する指導を実施することができるよう、取り組む際の参考となる事例集を作成する。
- (2)日 程
- ア 富士宮市版「食に関する指導」実践事例集作成委員会を組織し、富士宮市の児童生徒の実態や各学校の指導体制を踏まえて内容を検討した。
- イ 作成委員会を年5回程度開催し、小中学校の発達段階に応じて、栄養教諭を中核とした実践を掲載する。  
第1回 平成22年4月28日(水) 実践事例集作成の方向性検討。  
第2回 平成22年6月16日(水) 各校特別活動主任に実践事例集の趣旨を説明、指導案提出を依頼。  
第3回 平成22年11月5日(金) 実践事例集掲載指導案についての検討  
第4回 平成22年11月20日(金) 実践事例集原稿の検討  
第5回 平成22年12月8日(水) 実践事例集原稿の校正
- ウ 特別活動を中心とした指導案(家庭科、保健体育を含む)や、授業で活用したワークシート、授業後の指導者の反省(全校分)等が、すぐ活用できるようにCDにまとめた。
- (3)内 容
- ア 冊子 特別活動指導案各学年の代表を各一例(9)  
家庭科(2)・保健体育(1)・社会科(1)
- イ CD 特別活動指導案全校分(35)の電子データ



### 2 「各学年の食に関する指導の年間計画」の作成

- (1)趣 旨 「食に関する指導の全体計画」に基づき、各学年の発達段階に応じた指導が適切になされるように、各校の実態に応じた「各学年の食に関する指導の全体計画」を作成し、指導に生かせるようにした。
- (2)内 容 平成22年7月給食主任者会を開催した際、「各学年の食に関する指導の年間計画」作成のポイントについて、栄養教諭や給食指導員より説明を行った。
- (3)経 過 平成22年4月 各校「食に関する指導の全体計画」「給食の時間における指導の年間計画」集約  
平成22年7月 第1回給食主任者会にて「各学年の食に関する指導の年間計画」作成のポイントについて、栄養教諭や給食指導員より説明を行った。  
平成22年11月 「各学年の食に関する指導の年間計画」について、給食指導員より各校給食主任へ作成のポイントについて配布。  
平成23年3月 「各学年の食に関する指導の年間計画」を各校の年間計画へ入れ込む。

## テーマ3 「早寝早起き朝ご飯」「給食」を通じた食習慣改善指導のための取組

### 1 食育啓発リーフレットの作成

- (1)趣 旨 保健主事を中心に「早寝早起き朝ご飯」調査を実施し、実態を調査集計し栄養教諭と連携した食育の成果を検証する。  
子供の朝食摂取状況を指導できるリーフレットを作成し配布する際、学級担任が各校保健主事と連携を図りながら指導を行い、食生活の改善を図る。
- (2)日 程 リーフレット作成委員会を年間5回開催し、内容を検討した。
- 第1回 平成22年6月24日(木) 食育啓発リーフレット作成の趣旨の共通理解、役割分担  
第2回 平成22年8月2日(月) 「早寝早起き朝ご飯」の調査結果の分析、リーフレット全体像の検討  
第3回 平成22年9月7日(火) リーフレットの内容検討、各分担原稿の検討  
第4回 平成22年10月12日(火) 各分担原稿の検討  
第5回 平成22年11月11日(木) 各分担原稿の校正 → 保健主事部会で周知

(3) 配布先 小中学校全児童生徒・学級担任・来年度就学予定全園児

(4) 内容 ①元気な笑顔は朝ごはんから (表) ②忙しい朝の簡単うち朝ごはん(裏)



元気な笑顔は朝ごはんから



忙しい朝の簡単うち朝ごはん

## 2 家庭への啓発のための「食育啓発ポスター」の作成・配布

(1) 趣 旨 食育啓発ポスター案を募集し、児童生徒の食育に関する意識の向上を図る。  
優秀賞の作品からポスターを作成・配布し、保護者の食育への啓発を図る。

(2) 対 象 市内小中学生・来年度就学予定園児

(3) 経 過 平成22年7月2日(金) 開催通知送付

ア 応募状況 応募総数 103点 小学校の部74点 中学校の部29点

イ 審査日 平成22年9月2日(木)

中学校の部最優秀賞作品 ポスター図案に採用

小学校の部最優秀作品 食育啓発景品図案に採用

ウ 結果通知 平成22年9月3日(金)

エ 図案に合わせ、富士宮市制定「食卓の日」と合わせたカレンダー形式

(4) 配布先 市内全小中学校児童生徒各家庭・来年度就学予定園児



家族と食卓で栄養満点

## 3 「宮っ子オリジナル朝食コンクール」・写真展の開催・レシピ集の作成

(1) 趣 旨 栄養バランスのとれたオリジナル朝食を募集し、望ましい朝食内容の普及啓発を図る。

(2) 対 象 市内全小中学校児童生徒

(3) 応募内容 栄養バランスのとれた、朝食のおかずとなる料理を募集する。

(4) 経 過 平成22年5月21日(金) 開催通知送付

ア 応募状況 応募総数1630点 小1177点 中453点

イ 第一次審査 平成22年7月9日(金) 書類選考

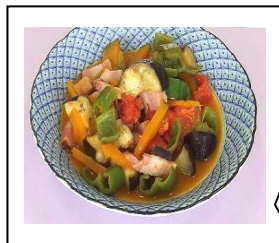
ウ 最終審査 平成22年8月11日(水) 実技審査 (優秀賞 小中学生ともに5名)

エ 写真展 平成22年9月4・5日 富士宮市民文化会館に展示

平成22年9月6日(月)～13日(金) 富士宮市役所ホールに展示

※市民の方々に見ていただいたことで、広く興味関心が高まる機会となった。

オ レシピ集 優秀作品をレシピ集にまとめ、学校教育課ホームページにアップ。広報ふじのみやに掲載。  
市内全小中学校、市民に配布。

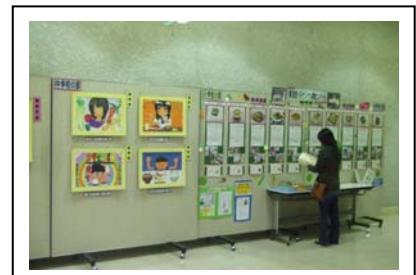


「夏野菜しつくり」  
「カレー煮」

※教育長賞 (中学の部)



※レシピ集



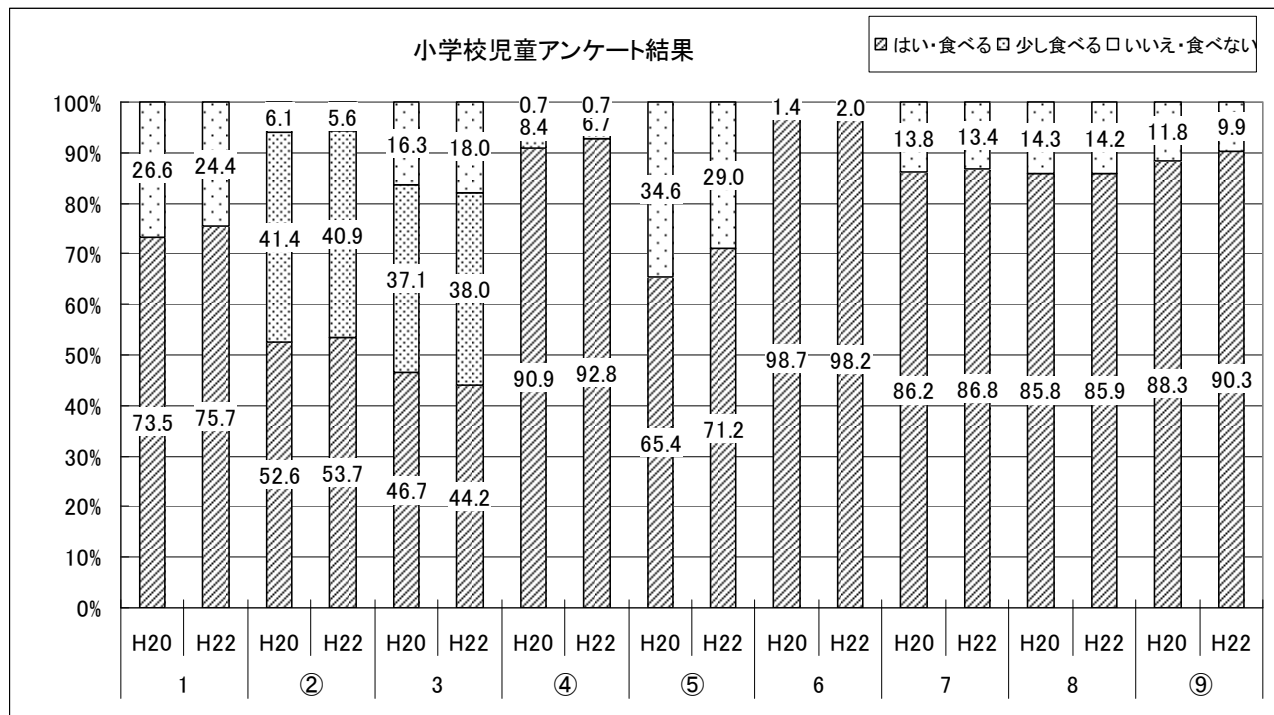
※写真展の様子 (一部)

## テーマ1～3に共通する具体的計画

栄養教諭配置3年目にあたり、児童生徒、教職員、保護者に対する意識調査を行った。調査結果より成果と課題を検証し、食育指導実践事例集の内容に盛り込み、保護者や担任の意識の啓発を図った。

# 数字で変化のあった事項について

平成20・22年度6月実施「食に関するアンケート」結果より ※数値が1%以上増加項目に○



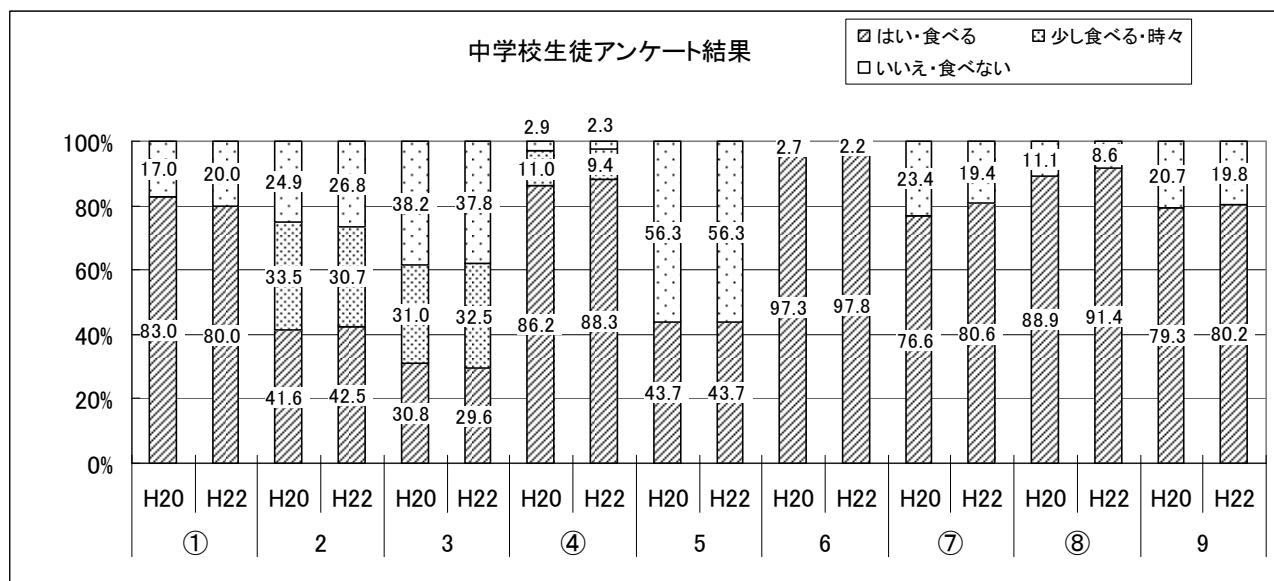
#### ☆アンケート項目

- 1 好き嫌いがある
- 2 給食の時、嫌いなものを食べる
- 3 家で嫌いなものを食べる
- 4 朝食を毎日食べている
- 5 栄養のバランスを考えて食べている
- 6 食事のあいさつをしている (学校)
- 7 食事のあいさつをしている (家)
- 8 お茶碗を持って食べている
- 9 食事の時間は楽しみ

#### 考察

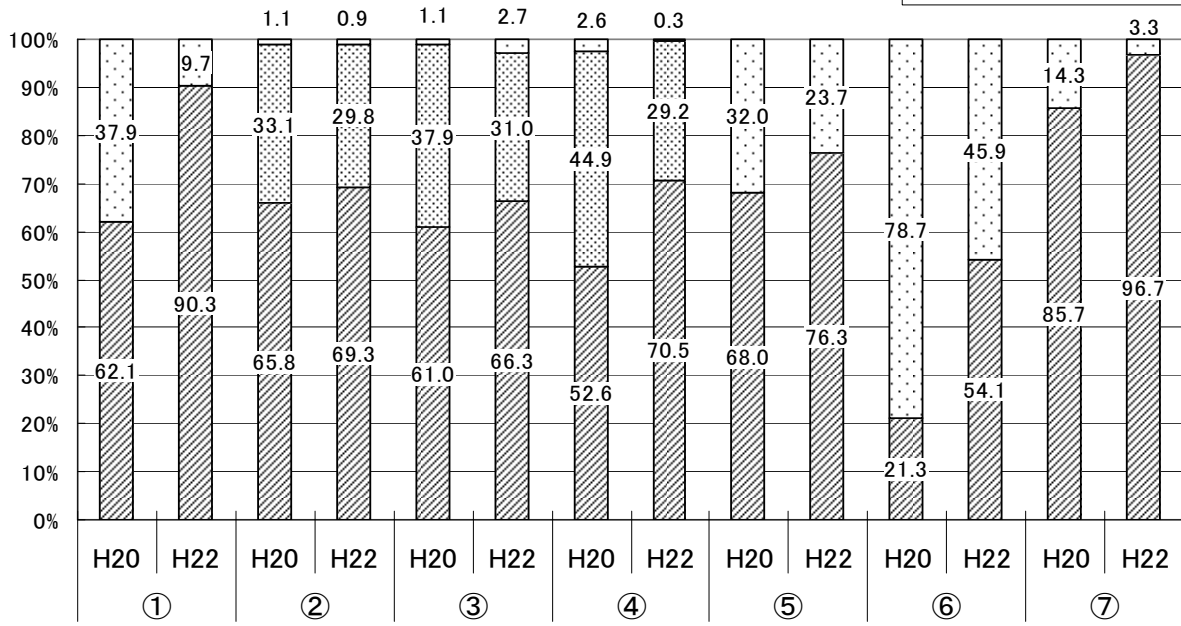
○小中学生共に、朝食摂取率が上がっている。さらに小学生は、栄養バランスの面でも改善が見られる。これまでの養護教諭の継続的な指導や栄養教諭の指導の成果が表れてきた結果だと思われる。偏食に関する指導については、まだ課題がある。

○数値的にはわずかであるが、テーマにもつながる「食事の時間を楽しみ」にしている子どもが増えてきていることは、大変喜ばしい。



### 小学校アンケート結果(教師)

■ はい □ 少し・時々 □ いいえ



#### ☆アンケート項目

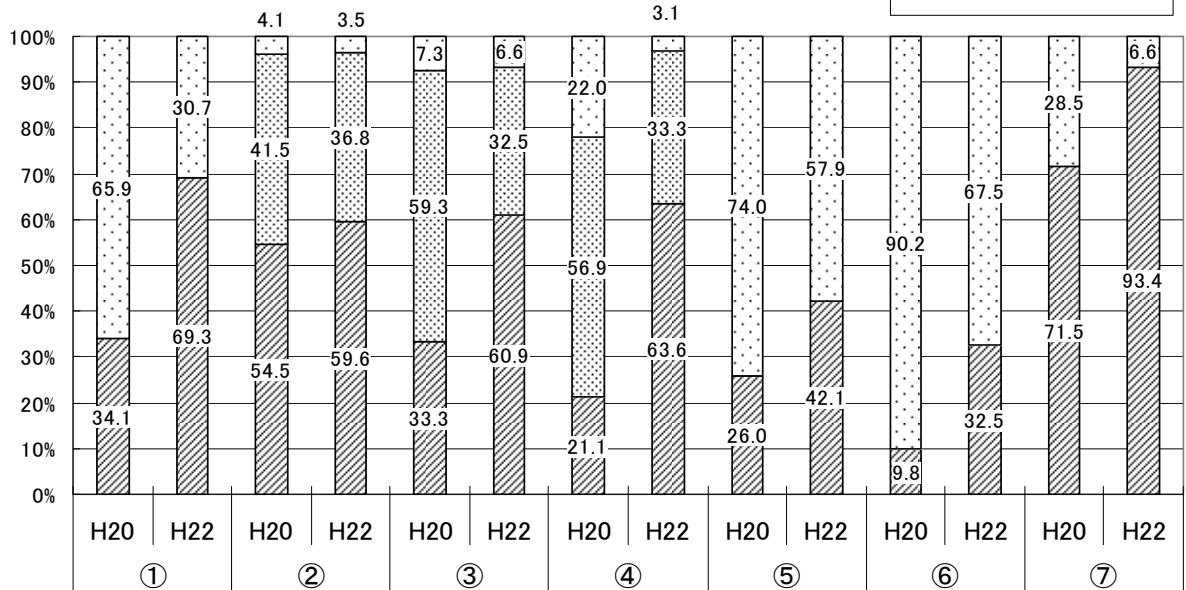
- 1 食育の日を知っている
- 2 食育に興味や関心がある
- 3 偏食指導をしている
- 4 食事のマナーを指導している
- 5 食に関する指導をしたことがある
- 6 全体計画を活用しているか
- 7 栄養教諭の配置を知っている

#### 考察

- 小中学校共に、全項目での数値の上昇は、栄養教諭の配置による教職員の食育への関心の高まりの表れであり、大きな成果であると言える。
- 小中学校共に、「食に関する指導の全体計画」をさらに活用し、食育指導を系統的継続的に確実にやっていく必要がある、

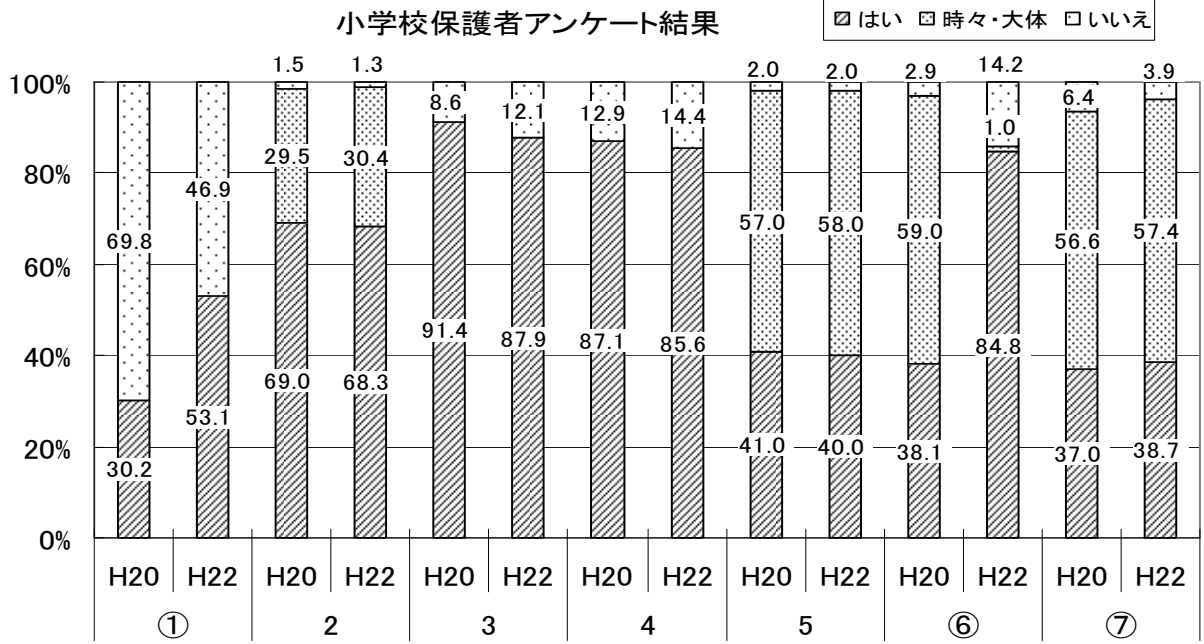
### 中学校アンケート結果(教師)

■ はい □ 少し・時々 □ いいえ





小学校保護者アンケート結果



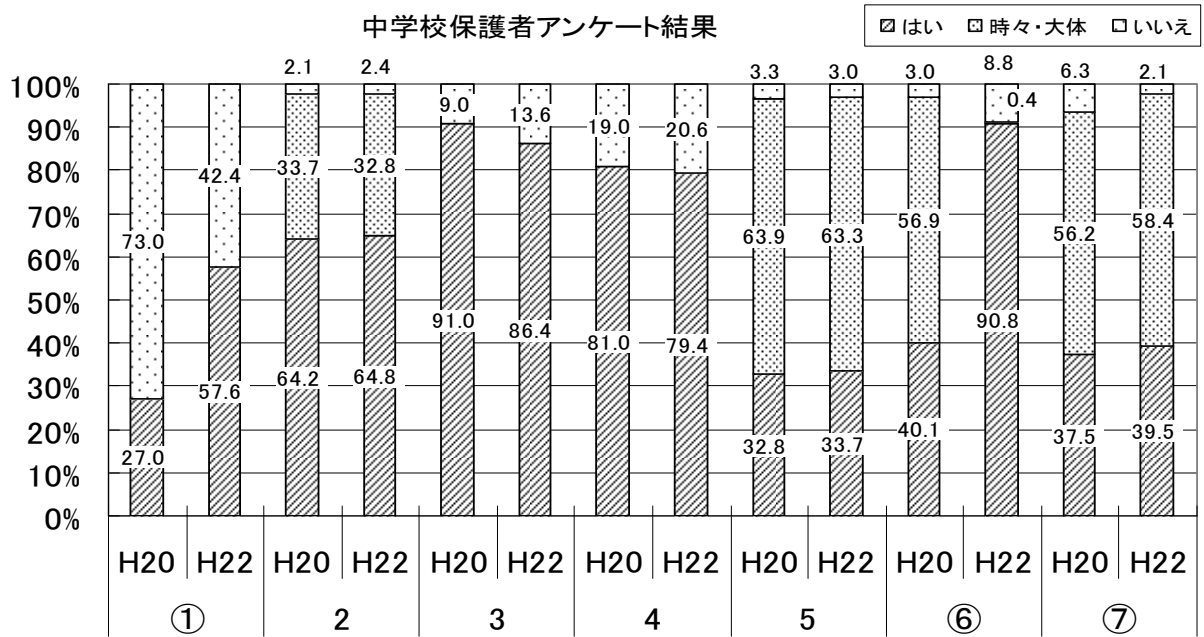
☆アンケート項目

- 1 食卓の日を知っている
- 2 家族そろって食事をしている
- 3 栄養バランスのよい献立を意識している
- 4 子どもは食事の挨拶をしている
- 5 決まった時刻に食事をしている
- 6 旬の食材を意識している
- 7 地元でとれたものを使っている

☆ 考察

- 「食卓の日」の周知率が高くなった。今年度は各校で毎月「食卓の日」を意識した取組がされたため、さらに高くなっている。  
(12月平均実施率75.5%)
- 旬や地元の食材への意識も高まってきた。
- 決まった時刻に食事ができない原因については複数の要因が考えられる。

中学校保護者アンケート結果



○富士宮の児童生徒、保護者、担任対象の意識調査結果の一部より（H22 7月実施）

調査結果から、2年前に比べ、栄養教諭の周知率や、食育の授業の実施率等は、確実に成果をあげている。また児童生徒、担任の食育への意識も高まっている。また小学校では、朝食摂取率や、栄養のバランスへの意識が高まり、給食では嫌いな物でも食べる率があがっている。保護者も「食卓の日」や「旬の食材」「地産地消」への意識が大幅に高まっている。一方、「栄養のバランスのよい食事」の意識率には課題がまだあることもわかった。

- ・ 食事の時間は楽しみか。（児童生徒）小 H20(88.3%)→H22(90.3%) 中 H20(79.3%)→H22(80.2%)
- ・ 旬の食材を選んでいるか。（保護者）小 H20(38.1%)→H22(84.8%) 中 H20(40.1%)→H22(90.8%)
- ・ 食育の日を知っているか。（担任）小 H20(62.1%)→H22(90.3%) 中 H20(34.1%)→H22(69.3%)
- ・ 食に関する指導をしたことがあるか。（担任）小 H20(68.0%)→H22(76.3%) 中 H20(26.0%)→H22(42.1%)
- ・ 食に関する指導の全体計画を活用しているか。（担任）小 H20(21.3%)→H22(54.1%) 中 H20(9.8%)→H22(32.5%)

○テーマ2の「各学年の食に関する指導の年間計画」は、「食に関する指導の全体計画」（H20 100%作成）と「給食の時間における指導計画」（H21 100%作成）と同様、全校で100%作成。

## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

○宮っ子オリジナル朝食コンクールの開催

今年度は3回目になるため、担任や、児童生徒保護者にも徐々に周知され、応募点数がH20は631点、H21は1436点、H22は1630点と増加し、興味関心が高まっている。

本コンクール応募にあたっては、児童生徒自らが制限時間内（小学校20分、中学校15分）で調理するところに特徴と価値がある。各学校では、家庭科の授業を利用して栄養教諭と連携をとりながら取り組むところが多く、地産地消や旬の食材を意識しながら、栄養バランスの摂れた簡単・オリジナルな料理が増えてきている。家庭で台所に立つ児童生徒が増えるなど、「子どもの食の自立」を目指した取組として成果が上がっている。

（参加者保護者の感想）

- ・ 宮っ子オリジナル朝食コンクール実施が3回目ということで子どもたちの朝食に対する意識が深まってきたことが何よりです。コンクールに向けて朝食を摂る必要性、栄養の知識、調理の技術、調理時間等々、生きた勉強が年々身に付いてきているようです。何よりもうれしいことは、食事についての関心が深まり、時間のある休み時には、献立を作りお手伝いもしてくれます。一日のスタートの大切な朝食についての意識付けとなるこのコンクール実施に頭が下がります。

○写真展の開催

富士宮市役所市民ホールや、富士宮市民文化会館等、市民が多く集まる場所を利用し、写真展を開催したことにより、「宮っ子オリジナル朝食コンクール」の存在自体が広く知られるようになり、学校関係者だけでなく、広く市民の興味関心を集めることにつながった。

○食育啓発ポスターと「ここにカード」による「食卓の日」の啓発

「家族と食事で栄養満点」を合言葉に、富士宮市の「食卓の日」（毎月第3日曜日）を啓発してきた結果、小中学校平均実施率が6月の73.7%から2月の77.2%へと、3.5%も上がった。特に中学校は68.2%だったのが、2月には、72.9%と伸び、大きな成果が見られた。感想からも、児童生徒や保護者の意識の高まりが感じられた。

## 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

○「食に関する指導の全体計画」は平成20年度に100%作成している。平成20年度と比較すると活用率はあがってはいるものの、小学校で54.1%、中学校で32.46%と十分に活用している状況とはまだ言えない。昨年度作成の「給食の時間における指導計画」や今年度作成の「各学年の食に関する年間計画」とも合わせ、体系的・計画的に指導できるよう、活用率を上げていく工夫が必要である。

○食育指導実践事例集を作成するだけでなく、より多くの教員が具体的に活用できるよう、栄養教諭との連携のあり方を考え、より食育推進を図れるようにしたい。

○子どもの食の自立と健康を目指して、朝食摂取の状況や生活リズム等、改善していくためには、さらに工夫した保護者との連携が必要である。来年度も、小中学校食育推進協議会で協議しながら、給食主任、家庭科部、保健主事部、特別活動部が中心になって、各校の食育推進のあり方を検討し、発信していきたい。